



学校だより 第3号

木城町立みどりの杜木城学園

7月

木の苗の植



令和7年 7月25日(金)
文責：鎌田 頼彦

ハンドアップマイスター任命式

6月23日(月)に「東児湯ハンドアップマイスターの任命式」がありました。木城町長、高鍋警察署長、木城町教育委員会教育長を来賓に迎え行いました。任命式の内容は次の通りです。

- ①「開式の言葉」 高鍋警察署の方から「東児湯ハンドアップマイスター任命式」に至った趣旨を説明してくださいました。悲惨な交通事故から身を守るため、歩行者自らが横断歩道を渡る際に、運転手に横断の意思表示を行う、東児湯ハンドアップ運動を展開しており、木城学園の6年生56名に交通安全のリーダーになってほしいということでした。
- ②「任命書交付」 木城町長、高鍋警察署長から代表学園生2名に任命書が交付されました。
- ③「木城町長・高鍋警察署長あいさつ」 半渡町長が毎朝の登校時の様子や自分の命は自分で守ることの意義を話してくださいました。高鍋警察署長からも、自分の意思を運転手に伝えることの大切さについて話していただきました。
- ④「代表学園生宣誓」 町長、署長の前で、代表学園生が「ハンドアップマイスターとして、登下校や休日でも、手を挙げて横断歩道を渡り、下級生のお手ほんとなるように頑張ります！」と力強く宣誓を行いました。
- ⑤「教育長のあいさつ」 教育長が、年々毎朝の登校時に自分たちから手を挙げるようになってきていること、2年生ぐらいの学園生が横断歩道で手を挙げ横断した後、運転手に一礼していたこと等、学園生の素晴らしい態度を紹介してくださいました。
- ⑥「児童代表お礼の言葉」 町長、署長、教育長に、代表学園生がお礼の言葉をしっかりと伝えることができました。
- ⑦「記念写真撮影」 全員で記念写真を撮影しました。木城学園生だけでなく、木城町民のお手本となるように頑張っています。



フジバカマの植栽



今年もアサギマダラを呼ぶために、フジバカマの植栽を行いました。今回は、5・7年生が地域の方々と交わりながら作業を行いました。場所は、駐車場横の小グラウンドにある花壇です。

植栽は昼休みに行われましたが、その前に、地域学校協働本部・教育委員会・PTA等、地域の方々が学園生のために草を取り、土を耕してくださいました。いつも学園生のために、支えていただいていることに感謝です。

苗は95本準備されていて、1人1～2本植栽しました。きっとアサギマダラが飛来してくることを想像しながら植栽していたことでしょう。

今後は、フジバカマが生長するように、水やり等をしっかり行い、ぜひ、アサギマダラを木城学園に呼びましょう！



大活躍！8・9年生ボランティア隊

6月28日（土）29日（日）にリバリスで「ここ kon マルシェ」が開催されました。宮崎日日新聞にも記事が掲載されましたが、たくさんの方々が来場され、大いに盛り上がりしました。

実は、この盛り上がりの一端を8・9年生28名が担ってくれました。27日（金）は会場の前日準備を行いました。28日（土）29日（日）は、会場であちや靴を入れる袋、パン



フレットを配布してくれました。全ての学園生が、笑顔で来場者に対応していました。学園生からもらった方々は、自然と笑みがこぼれていて、素晴らしい風景でした。

また、ボランティア隊以外にも、たくさんの学園生が「ここ kon マルシェ」にお客として来場し、友達同士で仲良く買い物をしていました。カメラを向けると、最高の笑顔で応えてくれました。

地域の行事に学園生が参加することの意義を感じることができました！



防災おにぎり贈呈式

7月4日（金）昼休みに防災おにぎりの贈呈式がありました。農業生産法人株式会社エイティーファームの方からいただきました。

学園生代表3名（学園生会執行部）が受け取ってくれました。学園生がもらうときに「2日間何も食べていない」という想定で食べてみてと言われました。学園生は食べたとき「おいしい！」と言っていました。確かに、災害時を想定し



たときにこの防災おにぎりがあると本当に助かるなと感じました。表面上はつつるつつしていますが、食べると中から米粒が出てくる感じです。表面はペースト状にしているそうです。

この防災おにぎりですが、未開封なら何と5年間保存できるという素晴らしいおにぎりです。学園生全員分いただきました。9月1日の防災の日食べる予定にしています。

暮らしが豊かになる中、防災について考える機会となりました。



耕心コーナー たくましく育て学園生

例えば、七月四日：小グラウンドでは一年生がシャボン玉遊びをしています。プールでは六年生が着衣水泳をしています。校外学習として七年生は、高鍋農業高校・高鍋高校へ高校の体験に出かけました。三年生は、切原川で水質調査を行いました。五年生は、田植えをした場所での水田観察です。昼休みは、企業から災害時の非常食の贈呈式がありました。放課後には学園生の希望者ですが漢字検定が行われました。このように学校は一日においても様々な変化し、まさに生き物のように慌ただしく動いています。この変化の中で、学園生は日々様々なことを経験し着実にしつかりと成長しています。その姿を見る度に頼もしく嬉しく思います。

四月入学した一年生もこの四ヶ月でずいぶんと落ち着き、四十分の授業を受けられるようになりました。この変化のようにその他の学年の学園生たちも同じように一人一人が日々成長していると思います。成長の要因の一つはもちろん様々な経験であり、その中で失敗もあると思います。学校は失敗してもいい場所であり、ある意味失敗した方がその後の人生においてその経験を生かし成長するのではないかと思います。今の世の中を考えるとあまりにも子供たちの失敗をさせないための手立てが多いことか。教師もそうです。むしろ失敗から立ち上がるように見守り手を出さずに支えることの方が大切だと思います。時には叱咤激励も必要かと思いますが。：

「失敗しなかった一日は、何もなかった一日である。」という言葉があります。学園生には、大いに様々なことに自ら考え、判断し挑戦してほしいと思います。そしてたくましく育てほしいと思っています。

シャボン玉遊びや着衣水泳をしている学園生を見ながらふとそんなことを思いました。：。（校長）